

New year concert 2019

2013年2月、「キラリふじみ・コンサートシリーズ」は、戦後の日本の音楽シーンを牽引したヴァイオリニスト前橋汀子の半生を、同時代を生きた名優、林隆三と共に振り返るスペシャルなコンサートで開幕した。そこではデビュー 50 周年を迎えるにあたっての前橋の、「静かに淡々と、しかし熱く燃え滾る音楽への限りない情熱と決意」が言葉と演奏で浮き彫りにされた。

それから6年。前橋の視線はここ数年、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲という人類史上に残る傑作の森に向けられている。「究極のクラシック」と呼ぶべき、クラシック音楽の深奥を窮める弦楽四重奏。その最高峰に君臨するベートーヴェンの16曲の巨大な宇宙がそれだ。

昨年、あるコンサートの楽屋で、前橋は私にこう語った。「わたしね、いままでこのベートーヴェンの弦楽四重奏曲を弾くために音楽を勉強し、ヴァイオリンのソロやコンサート演奏活動が続けてきたような気がするの。それはみんなこのベートーヴェンの曲を演奏するためだったんじゃないかって思えるのよね」。日本のヴァイオリン界を牽引し続けた名ソリストを魅了して止まない至高の音楽がここにある。

ベートーヴェンの16の宇宙の中でも、最も崇高で深遠な曲とも呼ぶべき第14番 嬰ハ短調 Op.131。7つの楽章が間断なく有機的に続き、1つの壮大な世界観が見えてくる至高の作品。そして、《英雄》交響曲やピアノ・ソナタ《熱情》、ピアノ協奏曲第4番、ヴァイオリン協奏曲などを立て続けに作曲した充実期に生まれた《ラズモフスキー》は、「ベートーヴェンの弦楽四重奏曲」に対する我々のイメージを確立させた、言わば弦楽四重奏曲の方向性を定めた運命の曲。どちらも前橋の情熱を受け止めるにふさわしい傑作2曲が並んだプログラム。

そして前橋の脇を固める3人も充実の極みだ。ミュンヘン国際音楽コンクールの覇者として楽壇に登場し、若き日は前橋と同じくヨーロッパをベースにソリストとして活躍した久保田巧は、師シュナイダーハンの衣鉢を継ぐウィーンの音楽の薫りをいまに伝える。桐朋からジュリアード音楽院に留学したメンバーで結成され、同じくミュンヘン・コンクールを制し、戦後の日本とアメリカの弦楽四重奏を牽引した東京カルテットの重鎮、チェロの原田禎夫は、小澤征爾の若手の育成の中核も担い、日本の室内楽の師のような存在。同様に日本の室内楽界に欠くことのできないヴィオリストにして、オーケストラからも引っ張りだこの名手、川本嘉子は、いくつもの日本の室内アンサンブルをリードしながら、NHK交響楽団の首席奏者という顔も持つ。

埼玉初登場となる、一騎当千の名手が集うこのカルテットの真髓が聴けるコンサートになるに違いない。

● 西巻正史 トッパンホール プログラミング・ディレクター



前橋汀子カルテット

前橋 汀子 ヴァイオリン / Tetsuko MAEHARA, Violin

2017年に演奏活動55周年を迎えた、日本を代表する国際的ヴァイオリニスト。その演奏は優雅さと円熟味に溢れ、多くの聴衆を魅了してやまない。国内外で活発な演奏活動を展開し、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする一流オーケ、アーティストと共演を重ねている。近年、小品を中心とした親しみやすいプログラムによるリサイタルを全国各地で展開、好評を得ている一方、J.S. バッハの「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ」全曲演奏会に各地で取り組む。2004年日本芸術院賞、2007年第37回エクソンモービル音楽賞洋楽部門本賞を受賞。2011年春に紫綬褒章、2017年春には旭日小綬章を受章。使用楽器は1736年製作のデル・ジェス・グアルネリウス。



© 黒山紀信

久保田 巧 ヴァイオリン / Takumi KUBOTA, Violin

1984年ミュンヘン国際音楽コンクールで日本人として初優勝、一躍注目を集める。サヴァリッシュ、ギーレン、サハロフとの名共演は印象深く、またクライスラー作品の第一人者として高く評価されている。CD録音も多く、04年「バッハ：無伴奏パルティータ全曲」は「レコード芸術」誌の特選盤に選出。08年パウル・グルダとの「ブラームス：ソナタ全集」は現在も絶賛されている。サイトウ・キネン・オーケストラおよび水戸室内管弦楽団のメンバーとして長年にわたり活躍。現在、桐朋学園大学教授、国立音楽大学客員教授。



© 黒山紀信

川本 嘉子 ヴィオラ / Yoshiko KAWAMOTO, Viola

1992年ジュネーヴ国際コンクール・ヴィオラ部門最高位。96年村松賞、97年第7回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、15年東燃ゼネラル音楽賞・奨励賞受賞。ソリスト、室内楽奏者として最も活躍しているヴィオラ奏者の1人。京都アルティ弦楽四重奏団、AOIレジデンス・カルテットのメンバー。91年東京都交響楽団に入団、99年より2002年退団まで首席奏者を務める。2017年NHK交響楽団首席客演奏者に就任。タングルウッド、マールボロ、東京の夏、霧島などの音楽祭や、サイトウ・キネン・オーケストラ、小澤音楽塾、水戸室内管弦楽団等でも活躍。



原田 禎夫 チェロ / Akihiro HARADA, Violoncello

東京カルテットの創設メンバーとして30年間同カルテットを率い、世界各地で演奏。1999年退団後、ソリスト、室内楽、オーケストラなど幅広く活躍。NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団などにソリストとして出演。ピンカス・ズーカーマン、ジュリアード・カルテット、アルバン・ベルグ・カルテットらと共演するほか、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団でも活躍。後進の指導でも高い評価を受け、小澤国際室内楽アカデミー・奥志賀、スイス国際ミュージックアカデミー、北京室内楽講習会などで指導にあたる。現在、上野学園大学音楽学部教授。



© 黒山紀信

キラリふじみ・コンサートシリーズとは

芸術監督と5人のアソシエイト・アーティストと共に舞台芸術を創作し上演を行う富士見市民文化会館キラリふじみが、上質なコンサートをプロデュースするトッパンホールの西巻正史と共に、実績や才能豊かなアーティストを招聘し、キラリふじみオリジナルの良質なコンサートをお届けするシリーズです。

● 関連プログラム

ピアノレッスン Piano Lessons

『ベートーヴェンのピアノ曲、ピアノを伴う室内楽曲を弾こう』

- 講師 ——— 入江一雄 (ピアニスト)
西巻正史 (プロデューサー)
- 日時 ——— 11月25日 [日] 13時開始
- 会場 ——— キラリふじみ スタジオA
- 対象 ——— ピアノ、および器楽奏者。レベル、年齢不問。
- レッスン曲 ——— ベートーヴェンのピアノ曲 (ソナタ、変奏曲、小品等)、ピアノを伴う室内楽曲 (ヴァイオリン・ソナタ、チェロ・ソナタ、ピアノ・トリオ等)。
- 定員 ——— 5組 (1組につき40分~1時間)
※応募者多数の場合は抽選
- 参加費 ——— 1,500円
- その他 ——— レッスンの様子はとなたでも自由にご覧になれます。(要申込) ※詳細は申込用紙をご参照ください。
- 募集期間 ——— 10月1日 [月] ~ 11月15日 [木] 必着
- 申込方法 ——— 専用の申込用紙にご記入の上、郵送、FAXまたは直接来館にて。申込用紙はキラリふじみのホームページからダウンロードできます。

● レクチャー Lecture

『ベートーヴェン、その魅力』

ベートーヴェンと今回の出演者をテーマに、コンサートをより楽しむためのレクチャーを開催します。

- ナビゲーター ——— 西巻正史 (プロデューサー)
- 日時 ——— 12月16日 [日] 14時開始
- 会場 ——— キラリふじみ アトリエ
- 料金 ——— 500円
※公演チケットをお持ちの方は無料
- 定員 ——— 20名 (申込順)
- 申込方法 ——— 10月20日 [土] より電話、直接来館またはオンライン申込にて